

目的について

(社)日本 ITF テコンドー協会 理事長 岸玄二

おはようございます。

本大会の開催にあたりご尽力いただきました榎実行委員長、並びにスタッフの皆様、本当にありがとうございます。

大会を一つ開催するのはとても大変なことです。参加される方も当たり前と思わずに感謝の心を少しでもお持ちいただければと思います。

今日も心のあり方についてのお話をさせていただきます。

今日は根本的なところで何のためにテコンドーをやるのかというお話をさせていただきます。

皆さんは何のためにテコンドーをやっていますか？楽しいからでも痩せたいからでも良いと思います。ただ一つの組織としてみんなで行っている以上、一つの共通した目的が必要かと思えます。

武道である以上、強くなるということに向き合う必要があります。強いとは何度も伝え続けますがあるべき姿でいることです。そしてその姿に変わることが出来るかと言う事です。

変わるかどうか？これが我々が向き合い続けるテーマです。

皆さんは変われますか？常に問われていると思ってください。

今日は試合ということでもとても良いチャンスです。特に負けた時が最も変わるチャンスです。上手くいかなかった時にその原因を自分の中を探してください。この作業を自分と向き合うといいます。決して上手くいかなかった原因を相手の求めないでください。出来れば向き合い方も何となく向き合うのではなく、ド真剣に自分と向き合ってください。それが出来る人は変われると思えます。

では何のために変わるのか。ここが最も重要です。

皆さんでしたらやはり試合に勝つためでしょうか。それはそれでとても良いことです。

しかし当団体のみんながみんな試合に出るかと言えばそうではありません。むしろ試合に出る期間と言うのは人生においては短い時間かもしれません。

この団体でテコンドーを学ぶ全ての方に素晴らしい人生を歩んでほしいと思っています。

そのために何のために変わるべきかと言いますと、それは相手のために、相手を笑顔にするために変わって欲しいと思っています。

なぜそうするべきなのかと言われますと、細かい説明はここではしませんがこれは『教え』

だと思って受け取ってください。私は人間は鏡だという考え方を持っています。相手を笑顔にするから自分も笑顔でいられます。そういう生き方を実践して身に付けることが一番皆さんに伝えたいことです。

では道場で何をすればよいのかを例を挙げてご説明いたします。

今若い方達が世界に挑もうと努力を続けています。良く練習されています。しかしながら必ず伸び悩む時が来ます。今もそうかもしれません。では私は指導者としてどうあるべきでしょうか？それは私が変わる必要があるということです。選手が伸び悩んでいるのであれば、再び伸びるよう私が指導者として成長しなければなりません。そうすることでまた選手も変わります。また選手が壁にぶつかればまた指導者が変わる必要があるということです。

指導者と練習生というものは教える立場、教わる立場であるのですが、それ以前にお互いが変わり合う関係だということが必要だと思います。そうでなければ発展していきません。その先生以上、生徒以上のものは出来上がりません。

ではなぜ選手のために変われるのか？変わるという作業はとても大変なのになぜそれが出来るのか。それは簡単なことで相手のことを大事に思っているからです。変わるために最も必要なことは相手を大事にするという心です。

皆さんにとって道場において大事にしやすい方というのは目下の方だと思います。親が子を大事にするように、上下という言い方は好きではありませんが上の立場の方は立場が下の方を大切にします。

自分が上の立場になった時はどうか下の方を大事にしてください。

無意識に出来るのであればそれは身につけていると言えます。出来ないのであれば自分の意思をもって意識する必要があります。

その方がかわいいからとか、かわいくないからとか、そういったことは関係ありません。

目下の者は大事にすると自分で決めるということです。

若い時は自分の欲が大きいので自分が自分がとなるのは仕方が無いかもしれません。しかし歳を重ねるにつれて変わっていかねばならない部分もあるかと思います。と多くの方が仰られます。しかし私は若い時から相手のことを大事にする心を身に付けることが出来るなら身に付けた方が絶対に良いと思います。

道場において相手を大事に思える、そういう関係性を築いて行って欲しいと思います。

2024年4月28日 第9回大阪府テコンドー選手権大会
2024年5月19日 第12回三重県テコンドー選手権大会にて